

令和6年度
国内温室効果ガス排出削減・吸収量認証制度実施事業費
(環境負荷の見える化に向けたLCA/CFPに関する調査)

GX 促進に向けたカーボンフットプリントの 製品別算定ルール策定支援事業概要

2024年10月11日

イノベーション・環境局 GXグループ GX推進企画室

概要

- 製品別算定ルールの策定について支援を行い、サプライチェーン全体の排出量削減に貢献する先進例の創出を目指す

背景

- ・ 「脱炭素成長型経済構造以降推進戦略（GX推進戦略）」においては、「社会全体のGXの推進」を需要側から推進すべく、カーボンフットプリント（CFP）等の排出量の見える化を含めた新たな需要創出策が掲げられている
- ・ グリーン製品においてCFPを用いた公平な算定・比較をするには業界で統一された製品別算定ルールを確立することが不可欠である
- ・ 一方、適切な算定の業務負荷、企業の算定努力の反映、結果の公平性を担保するルールをどのように策定すれば良いかが分からぬ例も多い
- ・ 上記を踏まえ、昨年度「令和5年度GX促進に向けたカーボンフットプリントの製品別算定ルール策定支援事業」により、4分野の製品別算定ルールの策定を支援した



事業の目的と実施内容

企業の削減努力が適切に評価され、GX実現に貢献するグリーン製品が選択される社会を実現するため、昨年度に引き続き本事業では以下に取り組む

- ・ 業界団体による製品別算定ルールの策定
 - CFP算定者、CFP利活用者が策定に参画し、公平なルールを作成する
- ・ 製品別算定ルールの運用・利活用方法の策定
 - 策定したルールを今後どのように運用するか、次年度以降の製品別算定ルールの策定等も含めて方針を立てる

募集する業界団体

- 下記要件を満たし、想定成果物を提出することを求める

参加業界の要件

- 製品別算定ルール策定のニーズがあり、CFPの利活用シーンが明確になっていること（複数でも可）
- CFPもしくはLCA算定経験があり、実務を理解している企業が複数存在すること
- 幅広い利害関係者の参画が見込めること

想定する成果物

- 製品別算定ルール
- ルール策定後の運用、有効利活用等の具体的な提案

実施内容（1/2）

- 製品別算定ルール策定に向けた事前準備、素案作成、協議、製品別算定ルールの運用、利活用等の提案を実施いただく

	事前準備	ルール素案作成	協議	レビュー(任意) ¹	発行・公開	更新・改訂
実施方法	<ul style="list-style-type: none">● 参加企業、リーダー企業、各社役割分担の設計をし、作業部会等を設置する● 業界内でCFPを利活用するユースケースを明確化する● 対象製品を定義する	<ul style="list-style-type: none">● CFPガイドライン、ISO/TS14027の要件も参考にして製品別算定ルールを起草する● ルールを業界内でどのように利活用するかの方針を具体化する	<ul style="list-style-type: none">● 2時間×5回程度の検討会を実施する● アジェンダや議事録の作成を行う● 利害関係者の意見を踏まえ、利害対立を解決するようルール案・利活用案を修正する	<ul style="list-style-type: none">● CFPガイドラインを満たしているかについて、外部レビューを依頼する● 必要に応じて修正等対応する	<ul style="list-style-type: none">● ルールの名称を命名する● 製品別算定ルールを公開する	<ul style="list-style-type: none">● 必要に応じて、製品別算定ルールを更新する
主な要求事項	<ul style="list-style-type: none">● 作業部会は、利害関係者の視点及び能力のバランスの取れた組み合わせを確保しなければならない	<ul style="list-style-type: none">● 策定前に同カテゴリーの既存製品別算定ルールを調査する● 製品群における脱炭素施策や、製品特徴を踏まえたルールとする	<ul style="list-style-type: none">● ルールが、国内以外の利害関係者に大きな影響を与える場合、これらの関係者を関与させるよう努力することが望ましい	<ul style="list-style-type: none">● レビューは、3名以上の独立した外部専門家からなる構成にする● 筆頭となるレビューは、当該業界から独立していかなければならない	<ul style="list-style-type: none">● -	<ul style="list-style-type: none">● 改訂の必要性について、利害関係者から有意に提起された場合、策定主体は、当該算定ルールの改訂を検討しなければならない

1. 当該ルールを用いて算定したCFPが新聞紙上等で公に他社製品と比較して公表される場合や公共調達で利用されることが想定される場合には、レビューを受けることが必要

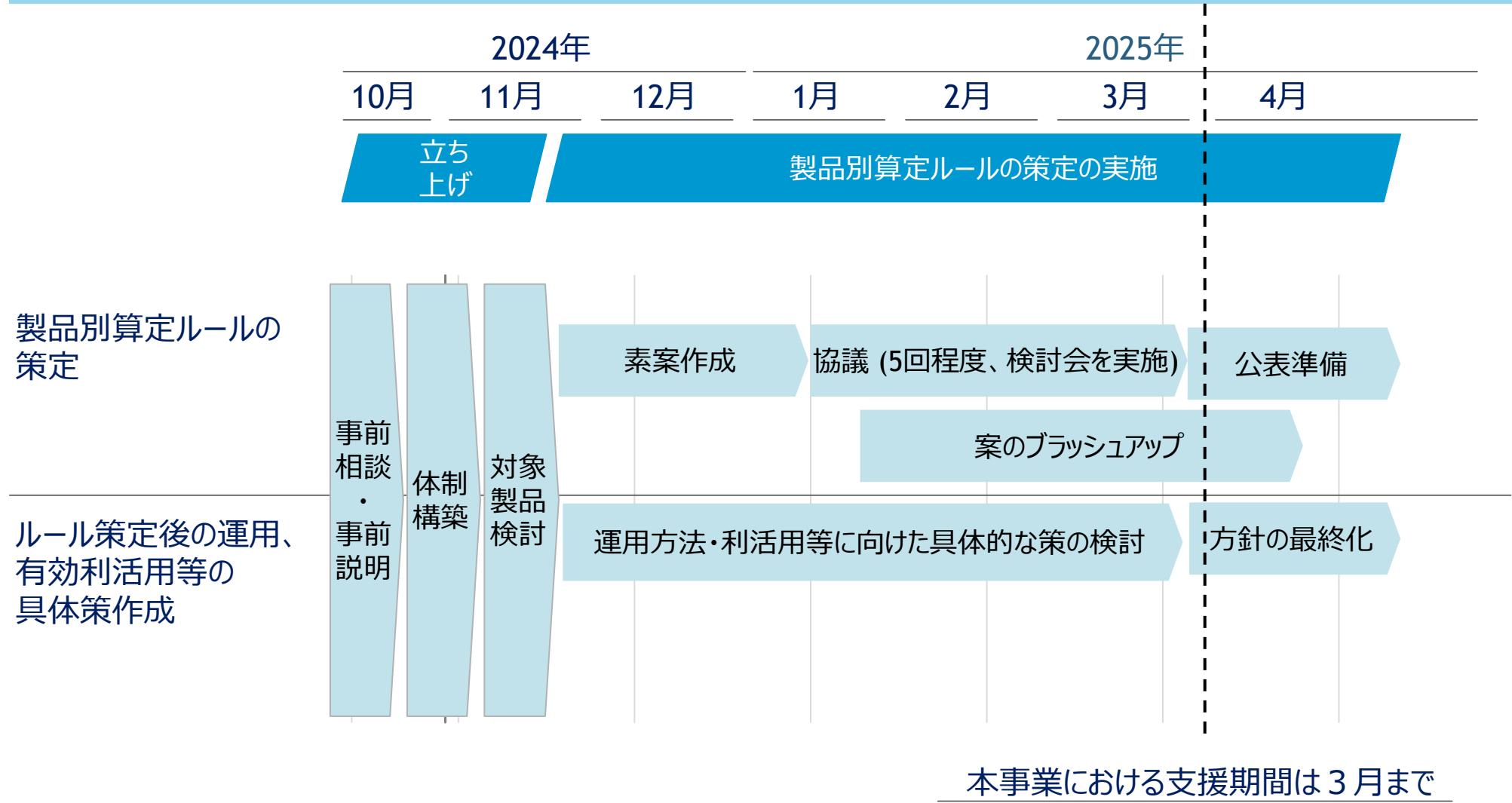
実施内容（2/2）

- 事前準備、素案作成、協議の具体的な業務内容は下記の通り

業務内容（イメージ）		役割分担		
		1 事務局	2 団体参加	3 実務支援者
事前準備	対象・検討方法の設計			
	事前相談、事前説明	製品別算定ルールの策定の手順やポイントについて事前相談を行う	✓	✓
	製品の選定	業界団体と議論しながら、対象製品を特定・合意する	✓	✓
	検討座組の設計	検討会への参加企業、リーダー企業、各社役割分担を設計する	✓	✓
素案作成	検討プロセスの設計	製品別算定ルールの検討プロセス、想定課題と対処法を整理する	✓	✓
	目的や対象の定義			
	目的・ユースケース明確化	業界にとってCFPを活用するユースケースを明確化・合意する	✓	✓
	対象製品・サービス定義	対象製品・サービスの定義を行う	✓	✓
協議	類似事例の調査	海外の製品別算定ルール、国内の過去事例などの文献を調査する	✓	✓
	素案の作成			
	素案項目の作成	製品別算定ルールの項目を整理	✓	✓
	要検討ポイントの明確化	製品群における主要な脱炭素施策や、製品特徴を踏まえ、ルール策定において重点的に議論すべきことを予め整理する	✓	✓
協議	オプション整理	上記に対する対応案オプション、議論する際の留意事項を整理する	✓	✓
	検討会の運営			
	各検討会アジェンダ設計	1業種・製品あたり2時間×5回程度の検討会の各アジェンダ設計を行う	✓	✓
	検討会の議事進行	検討会に出席し、当日の議事進行を行う		✓
協議	議事録の作成	検討会の議事録作成を行う		✓
	各種アドバイス	検討会での要検討課題について、今後とりうるオプションの提示、留意事項の提示などを行う		✓

製品別算定ルールの策定スケジュールのイメージ（支援期間は年度内）

- 約6ヶ月間にわたり、製品別算定ルールの策定を実施



採択団体の決定にあたり考慮する主な観点

● 以下の観点を考慮して採択する企業を決定する

✓ : 必須要件 ✓ : 満たすことが望ましい要件

観点①
本事業で実施したいことの
提案内容

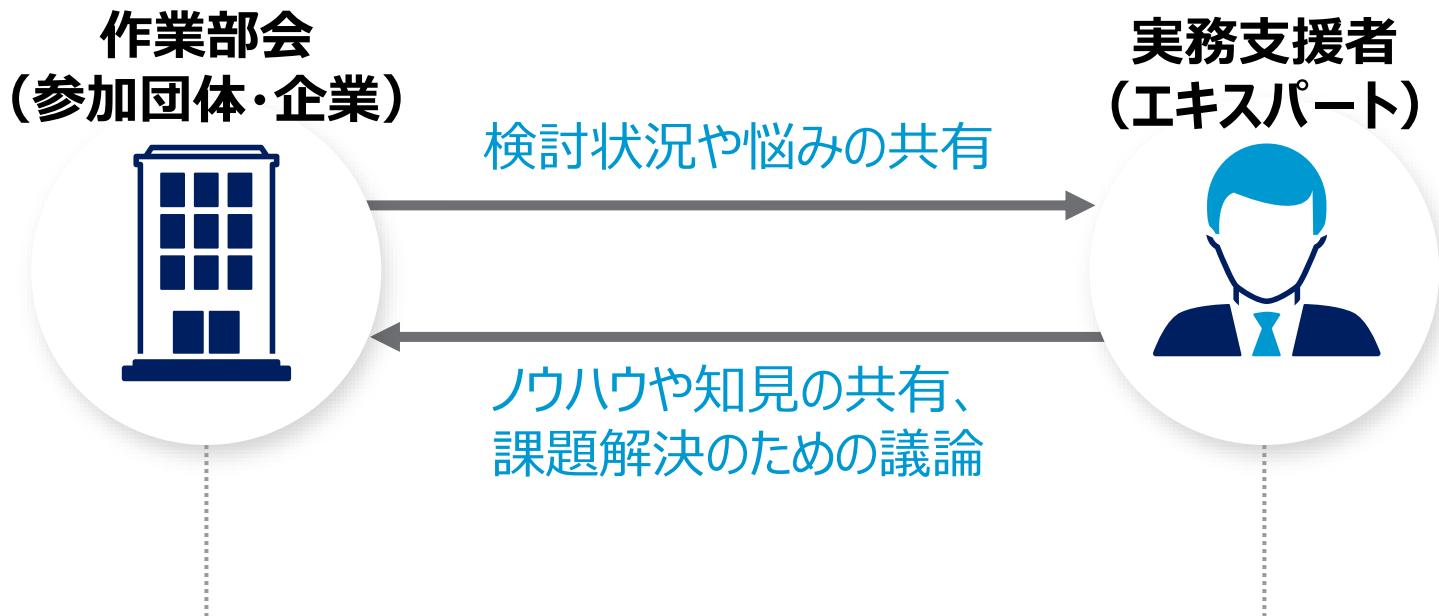
- ✓ 業界の脱炭素戦略におけるCFPの位置づけが明らかにされている
(想定利用シーンなど)
- ✓ 製品別算定ルールの策定の方向性を理解した上で、業界が取り組みたい実施内容のアイデアが提案されている

観点②
実施団体としての適性

- ✓ CFPもしくはLCA算定経験があり、実務を理解している企業が複数存在する
- ✓ 議論のとりまとめを行うリーダー企業・人物が明確になっている
- ✓ 製品に関連する主要企業の協力を幅広く取り付けられている
- ✓ ライフサイクル排出量が多い業界であり、排出量削減に取り組むインパクトが大きい

本事業の実施方法

- 参加団体・企業は、実務支援者（エキスパート）等の支援を受けつつ、自らが主体的に検討を進める



実施内容

- 国内外の関連データ/情報収集・分析、製品別算定ルールの策定、利害関係者との協議/調整（5回程度の検討会）、レビュー、製品別算定ルールの運用・利活用の検討、等

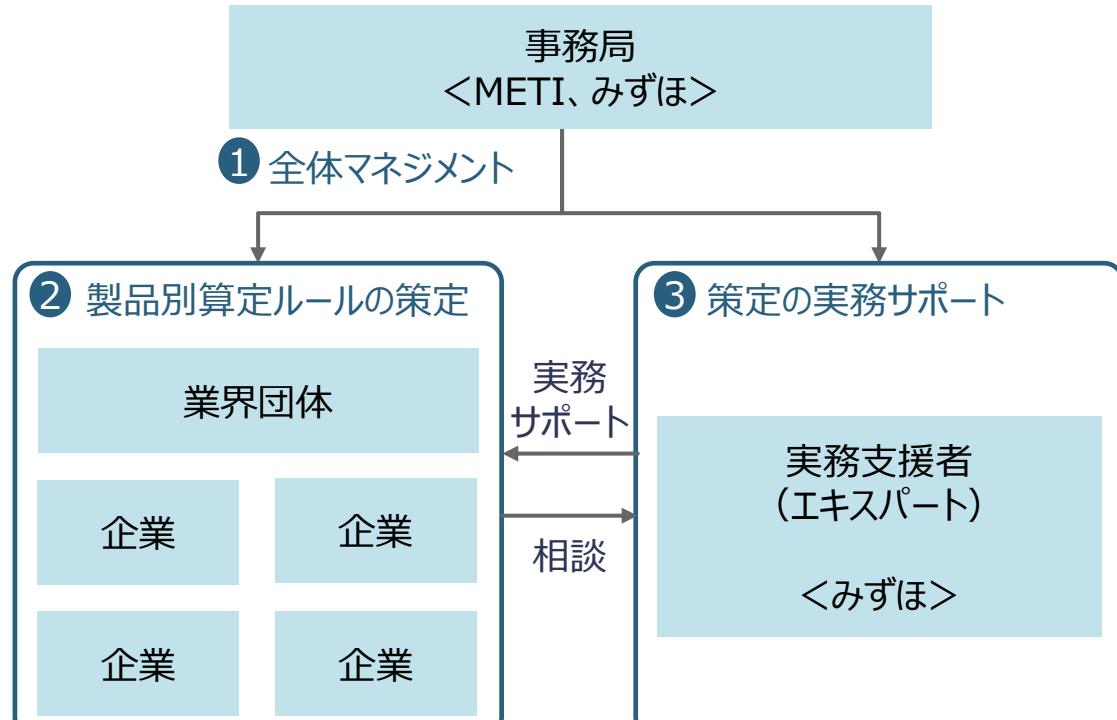
支援内容

- 先進業界のベストプラクティスの紹介
- 検討の進め方や内容に関するアドバイス等

本事業の役割分担

● 役割分担は下記の通り

体制図



役割

① 全体マネジメント（事務局）

- ・ 対象業界・製品の選定リード
- ・ 検討体制・役割分担のリード
- ・ 製品別算定ルールの型の作成
- ・ 事前相談・事前説明
- ・ 進め方の工夫について適宜共有

② 製品別算定ルールの策定（参加団体による作業部会）

- ・ 対象製品、検討体制についての合意
- ・ 標準となる製品別算定ルール素案の作成
- ・ CFPガイドラインをベースに、算定ルールの協議・合意形成・最終化

③ 策定の実務サポート（実務支援者）

- ・ 國際的なルール(ISO対応)、算定方法、バウンダリー等について適宜アドバイス
- ・ 算定負荷が高くなりすぎないための工夫のアドバイス
- ・ 国内外の事例共有